（様式第８号）

事業報告書（令和５年度）

事業名　SDGsに資する里山の再生事業～南海トラフ地震対策にむけて（８）～

団体名　就実・森の学校　　担当者　石田省三

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

年間を通して防災協定を締結している周辺町内会からの避難経路、避難地の整備点検を実施

以下に令和５年度の主な活動を列挙する。　参加者合計　１１５６

①	４月１８日	春の里山散策	小学生	６５	軽登山、植物観察
②	４月２０日	春の里山散策	小学生	６０	軽登山、植物観察
③	４月２５日	春を訪ねて	こども園	４５	里山散策
④	５月　５日	吹奏楽部里山活動	中学・高校生	１１０	軽登山、里山体験
⑤	５月２５日	未来創造里山体験(1)	中学生	５５	植生観察・炭焼き体験
⑥	６月１６日	社会教育主事単位認定講座	大学生	８	幼児に森の音楽を体験
⑦	６月２０日	竹細工講座	短大生	６９	幼児教育用工作講座
⑧	６月２４日	第30回グリーンボランティア	一般	９	赤松林整備
⑨	７月　８日	未来創造里山体験(2)	中学生	５５	赤松林整備
⑩	８月１８日	里山竹利用体験	高校生	８０	体育祭看板用竹伐採
⑪	８月２０日	トレイルランニング	一般	１０	里山整備・コース新設
⑫	９月　２日	土曜日講座（里山体験）(1)	高校生	３５	炭焼き・赤松林整備
⑬	９月　３日	防災博士になろう		１５	(里山センターと協働)
⑭	９月　９日	未来創造里山体験（３）	中一	５５	文化祭で公開展示
⑮	９月22-24	避難地整備	一般	６	避難路草刈り
⑯	10月　３日	秋の里山観察	小学校	６４	どんぐり拾い
⑰	10月25日	野外生活体験	小学３年生	５０	竹食器作り・屋外炊飯
⑱	11月　３日	第31回グリーンボランティア	中・高・大学生	７５	赤松林整備
⑲	11月11日	土曜日講座（里山体験）（２）	高校生	１７	赤松林整備
⑳	11月12日	操山里山愛好会（1）	一般	７	里山整備・竹林整備
㉑	11月23日	第32回グリーンボランティア	中・高・大学生	９０	赤松倫整備
㉒	12月　２日	操山里山愛好会（2）	一般	１０	里山整備・竹林整備
㉓	12月　３日	トレイルランニング講習会	一般	３０	
㉔	12月16日	操山里山愛好会（3）	一般	１０	里山整備・竹林整備
㉕	12月23-24	ナイトトレイルランニング	一般	６０	
㉖	１月　８日	操山里山愛好会（4）	一般	１０	里山整備・竹林整備
㉗	１月１３日	操山里山愛好会（5）	一般	１０	里山整備・竹林整備
㉘	２月　８日	七輪体験	小学生	４６	

（様式第８号）

２．ESD の視点
①　事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
本年度は大小合わせて２８回のイベントを開催した。イベントのテーマは里山に関するもので多岐にわたり、参加者の年齢層も幼児から高齢者まで幅広い。参加者からは「こんな身近なところに、こんな自然があり、利用の仕方によってはとても価値のあるところですね、また次回も参加したい。」との声をよく寄せられた。里山の良さに気づき、自分の生活に生かせることはないかと考えるきっかけになればと考える。 今年度は本事業の重要課題の一つである防災に取り組んで`10 年目となるが、この防災活動及び最近の新たな取り組みについても報告する。 今年度も例年同様、避難経路を維持するための点検整備、また緊急用エネルギー源として利用するための竹炭・木炭を焼成し、備蓄していく活動を実施した。参加者の中には中学校１年生から活動に参加して、今年で６年目だという生徒もおり、初めての参加者に積極的に教える姿が見られるようになり、この活動が定着してきたことがわかる。また、かねてからの課題であった生活環境改善のための生活排水施設（自然浸透式から完全排水路設備の新設）を更新することが出来、より安全で衛生的な環境が整いつつある。 また「就実・森の学校」の活動は緑の回復にも力を入れている。松食い虫被害により絶滅状態のアカマツ林の再生も重要課題の１つとして取り組んでおり一定の成果を上げている。また昨年度からは SDGs の目標のひとつである気候変動にも注目し、植林したアカマツの二酸化炭素吸収量を調査（岡山県二酸化炭素森林吸収評価認定制度による）したことは、中高生に気候変動と里山の関係性についても考えさせるよいきっかけとなった。この気候変動に対する活動も継続していくよう計画している。
②　どのように学び合いを取り入れたか
本活動は、森の学校の構成員（中・高校生）と地域住民が一体となって活動しているが、複数回参加者が初回参加者にそれぞれの活動技術を教え合うようなシステムが出来つつある。こういった学びのサイクルが確立できればと考えている。
③　どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
里山から学ぶことは多い。小学校３年生の社会に「昔のくらし」という単元があり、七輪体験の授業を毎年依頼される。この授業では、生徒たちが自分で焼いた炭と松葉で火おこしを体験できるようにしている。わずかな体験ではあるが何かの学びのきっかけになればと思っている。
３．取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
本事業は巨大災害に対する防災活動を中心として実施しているが、内容的には①避難地の整備②避難経路の整備③避難物資の備蓄④防災訓練等の実施⑤防災協定を締結している町内会との連絡協議が中心となっている。 ①～③は今年度の目標を十分ではないが概ね達成出来たと思われる。④については岡山市里山センターとの連携で、幼児を対象に一度実施することが出来た。
４．今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくり

（様式第８号）

の発展・継続につながるか）
本事業は極めて長い計画のもとに実施しており、短期的な成果は求めにくい。 しかし、本事業を継続していくことで、参加者一人一人の防災意識が向上していくことを期待している。また、より本格的な防災地として機能することが出来るよう、資金的な援助についても考えていきたい。 就実・森の学校では、操山山系を都市内の森林公園と位置づけ、岡山のセントラルパークとして多面的な利用をめざしている。都市近郊の低山ゆえ、高齢者の散策コースとしての利用度は大変高い。また最近では山を走るトレイルランニング愛好者が増えている。「就実・森の学校」はそのランニングコースとして適しているとして、多くのランナーが集まりつつある。ランナーたちは里山整備にも関心を示し、積極的に活動に参加してくれるようになった。また彼らは自らがランニングコースを作り整備も行っている。新しい里山の使い方として関心を持っていきたい。 ４年前からイノシシによる獣害が急速に進みつつあり、近隣住民は大きな打撃を受けている。これに対し我々や近隣住民は中区役所を始め各方面に対策を御願いしているが、対応に時間が掛かっていることに憂慮している。この獣害は農作業への被害だけでなく、ダニの持ち込み、増殖により引き起こされる人体への被害も心配され早急な対応が望まれる。これも住みやすい都市つくりに通ずる事であり対応が望まれる。